

座・ガモールファーム 通信

Vol. 38 | 2026.2.01



活動の詳細は裏面にて

テラスではそら豆が育っている

春に向け静かに育つ野菜たち

立春の候

寒さが増す中、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度の授業が終了し、大学構内は少し落ち着いた雰囲気になっています。テラスの野菜たちも冬の間は大きな変化も見られず静かな様子ですが、地中ではたくさんの根を張り、春を迎えるための準備を少しずつ進めている時期です。

さて、農園活動が一休みしている間も学生は活発に活動していま

す。12月からみらい館大明では社会福祉協議会と区の連携による、高齢者の居場所作りを目的としたベンチ作りプロジェクトが企画され、大正大学の学生が有志で参加しています。農園班の学生も数名が参加しており、1月には自分たちのデザインしたベンチ作りがスタートしました。この取り組みをきっかけに、次年度はより地域との交流が深まることを期待したいです。(山本)



テラスの山菜エリアから出てきた落のとう



今月の活動

キャンパス農園班

皆さまいかがお過ごしでしょうか。地域創生学部地域創生学科2年の野沢奏です。

暦の上では立春を迎えようとしていますが、凍てつく寒さの中、農園の土の下では春の準備が着々と進んでいます。近所の公園では梅の花が咲き始め季節の移ろいを感じております。今月号ではひと月早いですが今年度の振り返りを行いたいと思います。

今年度、キャンパス農園班は「地域とつながる農園」を目指し、試行錯誤を繰り返してきました。私自身、班の学生代表という大役を任せられ、当初は不安もありましたが、地域創生学部の学びを実践する場として「どうすれば地域の方々に農園の魅力を届けられるか」を問い続けた1年でした。

私の中で特に心に残っているのは、縁日の際に行った「サツマイモの収穫体験」です。地域の方々が土に触れ、大きな芋を掘り出した瞬間の歓声と笑顔を間近で拝見し、言葉以上のつながりを肌で感じることができました。自分たちが汗を流して育てた作物を介して、世代を超えた交流が生まれる。その瞬間に、農園が持つ地域創生への大きな可能性を強く実感することができました。

こうした日々の活動を通して、農園は単に作物を育てる場所ではなく、大学と地域を結ぶ大切な「結節点」なのだと再確認しました。至らない点も多々あったかと思いますが、活動を支えてくださった教職員の皆さま、地域の方々、そして共に汗を流してくれた仲間から感謝申し上げます。

今後は、より多くの方々に農園班の活動を知っていただき、さらに地域に深く根差した団体になれるよう精進してまいります。来年度も、このキャンパス農園が地域コミュニティの温かな拠点として発展し続けられるよう、このバトンを次へと繋いでいく決意です。1年間、本当にありがとうございました。来年度のキャンパス農園も、どうぞよろしく願いいたします。



近所の公園の梅の様子

座・ガモールファーム



テラスで育つ早生品種の玉ねぎ

2月に入り、冬の寒さがいっそう厳しい時期になりました。そんな中、テラスでは春に向けてそら豆、スナップエンドウ、玉ねぎなどが育っています。この時期は鳥類による食害が増える傾向があるため、今年は寒冷紗などによる対策を行う予定です。鳥害は課題の一つではありますが、同時にテラスの農園が地域の生態系の一部となってきたのを感じます。また、ブラックベリーの剪定作業も数回行いました。数年前から栽培しているブラックベリーですが、繁殖力が旺盛で毎年多くの実がつかます。剪定作業などの栽培管理は大変ですが、家庭菜園でもおすすめできる果樹です。

また、この時期はガモールファームでは毎年恒例の味噌作りの季節でもあります。2018年頃から続く恒例行事ですが、最近では日本農林社からいただいた大豆種子を使った味噌作りを行っています。農園班では今年唐辛子を使った加工品を作りたいというアイデアも出るなど、野菜の調理活用に関心を持つ学生が多く見られました。次年度はガモールファームの6次産業化を進めてみるのも面白いかもしれません。

一方で、今年度は南門広場の工事に伴う農園の縮小を余儀なくされるということもありました。次年度に向けて活動の幅をさらに広げるため、新たな栽培計画の模索もしていきたいところです。(山本)

詳細はこちら

座・ガモールファームの詳細はこちらから見るができます。Instagram、note、YouTubeに画像や動画がたくさんあり、Twitterではイベント告知をするのでぜひご覧ください。

